

歴史教育者の視点から 歴史の温故知新を発信する

歴史教育者・歴史研究者

河合敦 さん

27年間の高校教師の経験を活かして、書籍やテレビ番組で、難しい日本史をわかりやすく解説されている河合敦さんに、日本史に秘められた魅力と楽しみ方を伺いました。



桂浜の龍馬像の前で

歴史の一次史料に 史実を見つけ出す

歴史を研究する醍醐味は、知られざる過去の歴史の真実を明らかにすることだと思います。歴史学は、一次史料と呼ばれる当時の日記や手紙、公的な記録を集めて分析し、史実を明らかにする学問です。

例えば、1582年6月2日の本能寺の変では、明智光秀の襲撃を受けて、織田信長が自害しました。そのため公家や僧の日記や手紙には、この日に信長が本能寺で亡くなったという記述が多くみられます。ところが、豊臣秀吉が光秀に近い武将に送った手紙には、「信長は死んでいない。近江国の膳所という所で生きている」と書かれています。信長が生きていると伝えれば、光秀に味方できないという秀吉の戦略だったのか、秀吉があまりの大事件に混乱して送った誤報だったのか。秀吉が送った手紙の真

意はわかりませんが、他の一次史料とは全く違います。ですから、秀吉の手紙は史実ではないと考え、これを除外する必要があります。こうした史料批判を経て、信長は本能寺で自害したと結論づけるのです。一次史料であっても、今述べたように、様々な人の思考が隠されています。何が事実なのかということを読み出すのは、研究者の手腕にかかっています。

史料批判で真実を導き出す

このように一次史料には、間違いや誤解、嘘、思惑など、事実とは異なるものもあります。そのため史実かどうかを選定する史料批判という作業を積み重ねることが大切なのです。

旧家の蔵から武将の手紙が見つかったとニュースで報じられることがあるように、今後重要な一次史料が見つかると思います。新たな史料の発見で、定説コロボレーション企画を打ち出しています。

このように、若い世代が楽しむゲームなど新しいツールを通して、シニア世代が日本史を楽しんでもよいと思います。いずれにしても、より多くの時代が注目され、日本史の深さが新しいコンテンツとして活用されることは、温故知新で非常にうれしく思います。

友の会会員の皆さまには、デジタル化の流れを受け入れ、ますますアクティブに若い人とも交流を深めて、日本の歴史の魅力にたくさん触れてほしいと思います。

Kawai Atsushi

1965年、東京都町田市生まれ。青山学院大学文学部史学科卒業、早稲田大学大学院博士課程満期退学(教育学研究科社会科教育専攻・日本史)。高校の教師として27年間務める。現在、多摩大学客員教授、早稲田大学非常勤講師。歴史教育者として難しい日本史をわかりやすく楽しく教えることをモットーに、講演や執筆をはじめ、テレビ番組の出演多数。『殿様は明治をどう生きたのか』(扶桑社)、『日本史は逆から学べ!』(光文社)、『渋沢栄一と岩崎弥太郎』(幻冬舎)、『徳川15代将軍 解体新書』(ポプラ新書)、『江戸500藩全解剖』(朝日新書)、『徳川家康と9つの危機』(PHP新書)など多数の著書がある。



都立高校の教員時代の授業風景

がひっくり返るといったことも過去にありました。それも歴史の醍醐味の一つと言えるでしょう。

ところで、一般的な歴史の解釈にも多くの誤解が見られます。

例えば、秀吉は足軽の出身で職を転々として苦労し、信長の草履取りをしていた時、懐で草履を温めたことで見出されたとなっていますが、この話は江戸時代に創作された物語、つまりフィクションだと考えられています。

こうした軍記物語を元に作家が創作した小説が、あたかも歴史の事実のように受け止められ、間違った歴史が広がることもあり、気をつけなければなりません。

もちろん、軍記物語が現代人にどのような影響を与えたのかを考察するのも歴史研究の範疇ですが…。

歴史教育の変化

私は、高校の教員として27年間、日本史を教えてきました。その経験を活かし、歴史の専門家が話しても、なかなかうまく伝わらないこと、難しく過ぎてよくわからないことを、私自身がきちんと理解した上で、皆さまにわかりやすく伝えたいと思っています。

ところで、最近の日本史の教科書は、日本の歴史を学ぶことで日本人としての資質、国際的な協調性、多様性なども学ぶことができるように工夫されています。

特に教育現場では、温暖化や公害、人種差別など、現代の課題を解決するために歴史をさかのぼりながら学ぶ方針に変わってきています。特にアクティブラーニングと言って、教員が知識を教え込むのではなく、生徒自身が課題を見つけて資料を集め、自分なりの仮説を立てて、その課題解決の答えを出すように導きます。これは、歴史学の研究プロセスに近いもので、私はとてもよいことだと思っています。

ただ、その際の注意点が、いかに正しい歴史の情報を得るのかということです。生徒はインターネットをうまく活用しますが、情報の正しさを見極めることが苦手です。インターネット上には、根拠のない間違った情報や、フェイクニュースなどがあふれていますから、資料館や公的な機関が発信している資料を使うように指導してきました。史料批判のテクニック

と同じように、どのような情報が正しいのかを見極める力が重要だと思います。

情報を駆使して歴史を楽しむ

歴史の中の出来事が事実か事実でないかは専門家に任せ、友の会会員の皆さまには、素晴らしい歴史の醍醐味を楽しんでほしいと思います。

その一つの方法が、スマートフォンやパソコンで使えるアプリ(アプリケーション)を活用することです。日本史の勉強に役立つアプリのほかに、歴史に関するゲーム性の高いアプリもありますから、継続的に楽しめると思います。

また、アクティブに日本の歴史に関わってほしいと思います。「関ヶ原の戦い」の場となった関ヶ原町には体験型の記念館も整備されていますし、なによりも関ヶ原の広さを体感してほしいと思います。ほかにも、1570年の「姉川の戦い」の舞台となった姉川は、季節によっては飛び越えられそうな流れの川です。きつと大河を想像していた方は意外に思うでしょう。このように歴史の現場に向かい体感しつつ、当時の戦いの状況を想像することも楽しい時間になると思います。

昨今、「刀剣乱舞」というゲームが発端となり、本物の刀剣が若い女性の間でブームとなつて、ミュージカルやアニメになりました。こうした人気を利用して、博物館などが若い人の集客を目的として